

弘誓の強縁

本願寺出版社発行の月刊誌に「大乘」というものがあります。毎月、楽しんで読んでいます。

三月号満井秀城和上がお書きの歎異抄の連載を読んでいて思わず「？」となりました。そんなことも知らないのかと笑われてしまうかもしれません。「？」となったのは「袖擦り合うも多生の縁」のご文を読んです。

「多生?」、「多少」の間違ひではと思ひ、急ぎ、辞書を調べてみると「多生」が正解でした。

「多生」の意味、角川書店の国語辞典では意味が二つありました。

- ① 何度も生まれかわること
 - ② 多数を生かすこと
- 大修館書店の漢語林では生死を重ねて何回も生まれ変わることに

とあり、その後、「袖触れ合うも多生の縁」とありましたので、この場合の「多生」は何回も生まれ変わるこの意味になるようです。

で、「袖擦り合うも多生の縁」は、ちよつとしたできごとと前世の深い因縁によるという意味でした(角川書店の国語辞典による)。

今、人として生をいただいている私たちも迷いの世界を生まれ変わりする「多生」をしてきたのですね。

調べついでに本願寺出版社発行の「浄土真宗辞典」で「多生」をみると、

何度も生を重ねることとあり、親鸞聖人の使用例として『教行信証』冒頭「総序」の「ああ、弘誓の強縁、多生にも値ひがたく

『正像末和讃』の多生曠劫この世まで

あはれみかぶれるこの身なり

などがあると例示してありました。

さて、上記の「総序」のご文を少しあともまで含めて現代語で紹介します。

ああ、この大いなる本願は、いくたび生を重ねてもあえるものではなく、まことの信心はどれだけ時を経ても得ることとはできない。思いがけずこの真実の行と真実の信を得たなら、遠く過去からの因縁をよろこべ。

(『顕浄土真実教行証』文類『現代語版五頁』)



受けがたい人身をいただくご縁を賜りましたし、さらには出遇いがたい仏法のご縁もいただいている今を私たちは喜ばなければならぬ。そして、そのご縁は遠い過去世からの因縁だったのだと親鸞聖人は教えてくださいます。

遠い過去世の因縁により、この私は阿彌陀さまのご本願、お慈悲に願われ、阿彌陀さまの救いのはたらき名号南無阿彌陀仏に出遇わせていただきました。

「念仏易行」(真実の行)と「他力の信心」(真実の信)という阿彌陀さまの一人ばたらきが遠い過去から迷い続ける私を救うとはたらき続けてくださるご縁に気づき、そのご縁を疑いの心なく、二心なくいただく日暮らしを過ごしたいと思ふことです。

法語の世界

《原文》

法敬坊に、ある人不審申され候ふ。これほど仏法に御心をも入れられ候ふ法敬坊の尼公の不信なる、いかがの義に候ふよし申され候へば、法敬坊申され候ふ。不審することなれども、これほど朝夕御文をよみ候ふに、驚きまうさぬ心中が、なにか法敬が申し分にて聞き入れ候ふべきと申され候ふと云々。

(『蓮如上人御一代記聞書』二百十七)

《現代語訳》

ある人が法敬坊に、「これほど深くあなたは仏法を信じているのに、あなたの母親に信心がないのは、どういうことでしょうか」と、疑問に思っていることを尋ねたところ、法敬坊は、「その疑問はもつともなことです。朝夕、どれほど御文章をよみ聞かせても、少しも心を動かさないのでから、このわたしが教えたくらいのことです。どうして聞いてくれるでしょうか」といわれました。

二〇一八年・春季彼岸会法要のお知らせ

とき 三月二十一日(水) 午前九時半

ところ 金光寺本堂

勤行 正信念仏偈(草譜)・六首引き

講師 住職 松井卓郎

その他 経本・念珠・式章(門徒・仏协会会员)を

ご持参ください。法要終了後、仏教婦人会総会を開催します。

初盆会について

本年の初盆会について、日時を決め、お斎の予定をお立ての際は早目にご連絡ください。例年に比べると本年は初盆をお迎えになるお宅が多そうです。受付順に日時を決めます。

下記の日時はすでに予定が決まっています。

記

8月13日

9:00	10:00	11:00
12:00	13:00	14:00
15:00	16:00	17:00
18:00		

8月14日

8:00	9:00	11:00
12:00		